

大館市成章学校給食センター

建設工事順調

市では、平成六年度から八年度までの三カ年計画で学校給食施設の整備を進めています。初年度の今年、成章小・中学校で学校給食を実施するために「成章学校給食センター」の建設工事を進めています。この施設の完成によって、来年四月には両校で給食が始まる予定です。

児童・生徒の健全な成長を考えて

現在、市内二十二の小・中学校のうち、学校給食が実施されているのは九校。学校給食実施率の平均が九〇%を超えているのに比べると、大館市内では四一%と低率が急務となっていました。

現代は、食生活の嗜好が多様化しています。「学校給食の実施は、児童・生徒の食事の画一化を招くのではないか」とか、「一人ひとりの体質に合わせた献立作りなど、食事に対する細かい配慮が難しくなるのではないか」とか心配する声も聞かれました。



来年4月から給食が始まります

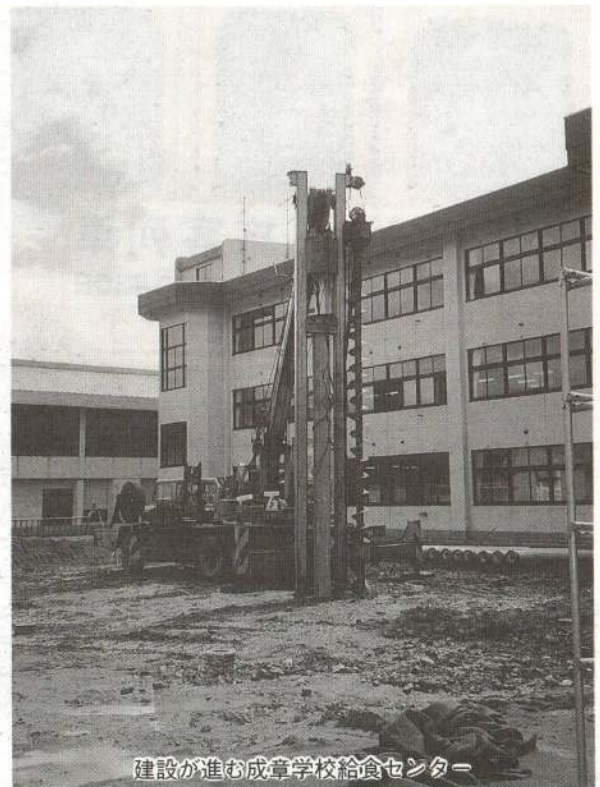
しかし、学校給食は、食品の安全性確保には万全を期していますし、専任の栄養士を配置するなど

して、育ちざかりの児童・生徒の栄養バランスを十分考え、かつバラエティーに富んだ献立を組み立てています。そのため、既に実施している学校では、児童・生徒はもちろん、父母からも好評を得ています。

調理場にはドライシステムを採用

市では、学校給食未実施の残り十三校についても、早期に給食を実施できるよう検討を重ね、六年度から三カ年間の学校給食施設整備計画を策定し、現在推進しています。計画では当面、十二所、下川沿、南二井田・真中の三地区、六校を整備対象としています。今年度は、十二所地区に、二年目の七年度は下川沿地区に、最終年度の八年度には南地区に、それぞれ学校給食センターの建設を予定しています。

「成章学校給食センター」は既に九月一日から建設工事が始まっていて、来年二月末までには完了する予定です。この施設は成章小学校と成章中学校の給食を調理するもので、市内では矢立小・中学校に次いで二例目の共同調理場方



建設が進む成章学校給食センター

式を採用しています。調理場は、床が防水式で、調理機器自体も水がこぼれにくい設計とした「ドライシステム」。これは、市内の学校給食施設では初めて採用されるシステムです。建設場所は成章小学校の敷地内で、ちょうど校舎の裏手に位置しています。総事業費はおよそ一億五千六百万円。うち四分の一にあたる三千八百万円あまりが国からの補助金で賄われます。

成章学校給食センターが完成すると、来年四月から、成章小・中学校の児童・生徒約四百五十人に学校給食が実施されます。市では今後、三地区以外の未実施校についても、諸条件が整えば、学校給食の実施を進めていきたいと考えています。



▲ 成章小学校



▲ 成章中学校